

スクリプトの本体への保存

[SDロガー4]

2020年7月16日 (X520028) (株) データ・テクノ

■■スクリプトの本体への保存

電源起動時、カードのルートフォルダーに、「SAV_SCR.TXT」というファイルがあると、そのファイルに記述されたスクリプトが、ロガー内部に書き込まれ、電源を遮断されても保存されます。

正常に書き込まれた場合、ファイル名は「OK_SCR.TXT」に改名されます。【※1】

これにより、スクリプトの保存は一度きりで、何度も同じスクリプトが書き込まれることはありません。

またファイル名が、「WRT_SCR.TXT」があると、同じように内部に書き込まれますが、ファイル名の改名は行われません。

同じスクリプトを複数のロガーに書き込む場合には、いちいちファイル名を戻さなくて良いので、便利です。

スクリプトは書き込まれたあと、通常に実行されます。

保存されたスクリプトは、次回以降の電源立ち上げ時にも、同じように実行されます。

内部にスクリプトが保存されている状態で、スクリプトの保存を行なった場合は上書きされ、以前のスクリプト失われます。

スクリプトが内部に保存されている状態でも、挿入されているカードにスクリプト「SCRIPT.TXT」または、「SCRIPT.SCR」が存在する場合は、そちらが優先して実行されます。

保存用のスクリプト「SAV_SCR.TXT」または、「WRT_SCR.TXT」が存在しているカードに、通常のスクリプト「SCRIPT.TXT」または、「SCRIPT.SCR」が存在しても、無視されて実行されません。

●スクリプト実行の優先順位はつぎのとおりです

←優先

「SAV_SCR.TXT」 > 「WRT_SCR.TXT」 > 「SCRIPT.TXT」 > 「SCRIPT.SCR」 > 内部のスクリプト

●保存されたスクリプトの消去

保存されたスクリプトを消去したい場合は、空(サイズがゼロバイト)の「SAV_SCR.TXT」や、「WRT_SCR.TXT」を、カードに存在させてください。

空のスクリプトファイルは、スクリプトとして実行されることはありません。

「SAV_SCR.TXT」は通常の場合と同様に、改名されます。【※1】

●書き込み禁止ツメについて

【※1】カードのツメが、書き込み禁止にされている場合は、改名は行われません。

こととき特に、エラー表示などに、なることはありません。

●ファイル属性について

ファイルの属性が、「読み取り専用」や、「隠しファイル」になっていても、スクリプトの読み込み、実行、改名は、通常通り行われます。